

新型コロナウイルス感染症に関する検査

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をおねがいます

3つの「密」を避けましょう!

①換気の悪い
密閉空間



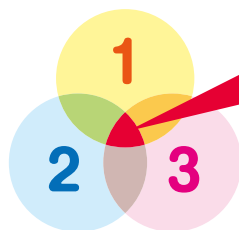
②多数が集まる
密集場所



③間近で会話や
発声をする
密接場面

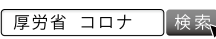


新型コロナウイルスへの対策として、**クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。**
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には
消毒などを行ってください。



【出典:首相官邸HPより】

COVID-19

Contents

新型コロナウイルス感染症に関する検査／② 「ALP・LDの測定方法の変更について」／③
お知らせ／④ ちょっとひと言!／④

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号 TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1510
<http://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html> E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

新型コロナウイルス感染症に関する検査

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が5月25日全国で解除され、徐々にかつての日常に戻りつつあります。一方、第2波、第3波の襲来も予見されており、新型コロナとの共存も踏まえた新たな医療体制の構築が求められています。そこで今回は診断の一助となる検査についてまとめてみました。

◎遺伝子検査 (PCR、LAMP等)

感度が高く確定診断に用いられる。

検査の性質上、結果が出るまでに時間がかかる。

検体採取時における二次感染に注意が必要。

(感染リスクの少ない唾液による検査が、発症から9日以内の者について認められた。)

◎抗原検査 (簡易キット)

検査開始から30分程度で結果が出る。偽陽性が少ない。

遺伝子検査より感度がやや劣ることもあり、結果が陰性であっても新型コロナウイルスの罹患は否定できない。(発症から2～9日目までの検体では抗原検査とPCR検査の結果の一致率が高いことから、この期間の検査においては抗原検査のみで診断確定が可能。)

◎抗体検査

過去の感染履歴の有無を判定。

現時点では検査結果が陽性であってもその抗体の持続時間や効果については明らかになっていない。

保険未収載。

	検 体	特 徴	保険点数 ※
遺伝子検査	喀痰 鼻咽頭ぬぐい液 唾液	感度が高い 検査に時間がかかる	1,350点 又は 1,800点
抗原検査 (簡易キット)	鼻咽頭ぬぐい液	短時間で結果がわかる 偽陽性が少ない 感度はPCR検査と比較するとやや劣る	600点
抗体検査	血液	感染実態の把握に用いる 研究検査項目のため 保険適用されていない	未収載

※算定の際は、算定条件にご留意ください。
(内容は6月17日現在の情報となります)

COVID-19



「ALP・LDの測定方法の変更について」

日本国内のALP・LDの測定方法がJSCC法(日本臨床化学会)から世界的に普及しているIFCC法(国際臨床化学連合)に変わります。これにより、日本国内の測定値は各国の測定値と互換性を持つことになり、検査のグローバル化が進みます。

1. ALP

現行測定法(JSCC法)は小腸型ALPの反応性が高く、血液型がB・O型でSe(Fut2)が分泌型の人では病気とは無関係に小腸型ALPが出現するため、臨床的意義が認められない高値が出現する場合があります。また、胎盤型ALPは小腸型ALPとは逆に反応性が低いという特徴があります。よって、JSCC法からIFCC法に変更すると、血液型B・O型では小腸型ALPを含む検体で低めになり、妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます。

2. LD

現行測定法(JSCC法)はアイソザイムのLD5が相対的に高く測定され、新測定法(IFCC法)はLD1とLD5がほぼ同等に測定されます。よって、JSCC法からIFCC法に変更すると、LD5優位検体で低めになります。

< JSCC法変更後の測定値について >

- ALPの測定値は下記のようにIFCC法がJSCC法の約1/3になります。

	現行測定法(JSCC法)	新測定法(IFCC法)
成人男女	106~322U/L	38~113U/L

ALPの換算係数については、B・O型の検体の比率によって回帰式の傾きと乖離の程度が異なるため、実測値に合致する換算係数を得ることは困難ですが、ほぼ肝型と骨型の検体と仮定した場合の換算係数は以下となります。

- JSCC法測定値からIFCC法測定値に換算：0.35倍
- IFCC法測定値からJSCC法測定値に換算：2.84倍

ただし、小腸型ALPや胎盤型ALPが増加する症例では、換算値は実測値から乖離しますので、ご注意ください。妊婦の場合にも妊娠週数が増すごとに胎盤型の出現が増すため、上記換算係数を使用すると実測値との差が大きくなります。

- LDの測定値は共用基準範囲ともに現行法と変わりません。

文献：「ALP・LD測定法変更について」 日本臨床化学会

福岡市医師会臨床検査センター全面改装に伴う検査内容、検査成績報告書変更および検査受託中止のお知らせ



このたび、最新設備が揃う次世代型全自動ラボラトリーを目指し、当センターの全面改装を実施いたします。

全面改装の工事期間中も、これまでと変わらず、引き続き検査受託業務を行ってまいります。検査実施場所を一時的に移します。

それに伴い一部検査内容、検査成績報告書変更および検査受託中止がございますのでご案内いたします。

変更内容の詳細につきましては

INFORMATION No.2020.04 をご参照ください。

なにとぞ事情ご賢察のうえ、ご了承賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【改装期間】令和2年7月25日(土)～令和3年3月末予定

ちょっと
ひと言!

『サッカーの起源』

世界のサッカー競技人口は、2億5千万人と世界中の人々に愛されているメジャースポーツの一つとして知られているサッカーですが、その起源については知らないという方も少なくないはず。

私も、サッカーファンの一人であるが、起源についてあまり知らず有力な説が3つもあると初めて知り皆さんに知ってもらいたいと思った。

イタリア説

カルチョとは、宮廷の門でお金をかけてボールを蹴り合う遊びのこと。

サッカーの勝敗にお金を賭けることを指す「トカルチョ」の語源とも言われている。

一定の定められたスペースの中で遊んでいたことや、参加人数を決めて同じ条件で闘うことなど…。

イングランド説

8世紀頃、中世イングランドの戦争の風習からきたとされている。

戦争に勝利した際、敵国の敵将の首を切り取り、その首を蹴って遊ぶことが勝利の証とされていた。やがて首ではなく、ボールへと変化していき「フットボール」という名称で遊びや祭り事に用いられるようになった。

中国説

中国の伝統文化である「蹴鞠・しゅうきく」という一種の芸能のような遊びが起源ではないかとされている。

さまざまな諸説があり、どの国も自国が起源だと主張しているようだが、それは同時にサッカーが愛されているという証拠である。

検査1課 生化学・免疫検査:山本幸司